

令和2年度第1回焼津市総合教育会議議事録(概要)

1 開催日時 令和2年8月31日(月) 午後3時30分から午後5時00分まで

2 会場 焼津市役所6階 603号室

3 出席者

(構成員)

市長 中野弘道

焼津市教育委員会

教育長 羽田明夫

教育委員 大石智之 奥川重子 山竹葉子

(関係者)

副市長 下山晃司

社会教育委員長 渡邊徹

(事務局)

教育委員会事務局長 櫛田隆弘、教育総務課長 増田洋一、学校教育課長 池田純也、学校給食課長 鈴木孝之、社会教育課長 見崎孝之、文化財課長 佐藤光夫、図書課長 石上睦晃、学校教育課主席指導主事 寺尾正幸、学校教育課主席指導主事 鈴木泉、教育総務課総務担当主幹 片瀬能彰

こども未来部長 渡辺晃子、子育て支援課長 藤野大、こども相談センター所長 岡村昇、子育て支援課ターントクルこども館建設室長 村松久美、子育て支援課ターントクルこども館建設室主査 飯塚宏慈

交流推進部長 小梁金男、文化・交流課長 山本智美、スポーツ課長 松永年史
行政経営部政策企画課総務担当主幹 山下浩一

4 協議事項

(1) 焼津市教育大綱の見直しについて

(2) 教育センター事業について

(3) 家庭・子ども支援室について

(4) その他

5 議事内容

別紙のとおり

<p>中野市長</p>	<p>【午後 3 時 30 分開会】</p> <p>(次第 1 開会)</p> <p>(次第 2 市長あいさつ)</p> <p>本市では、「第 6 次焼津市総合計画」において、「子どもがいきいきと輝きみんなで教育・子育てを支えるまちづくり」を政策目標として掲げ、次の世代を担う子どもたちが、夢や希望を持ち、いきいきと成長できるよう、教育・学術・文化の振興に取り組んでいるところです。この総合教育会議においても、教育委員会と行政が教育施策の方向性を一致させ、より良い教育環境を目指していきたいと考えています。本年度は、「焼津市教育大綱の見直し」と、昨年度に引き続き、「教育センター事業」、「家庭・子ども支援室」について、より充実した事業になるよう、ご協議いただいとと考えています。今後とも「総合教育会議」という席で、これまで以上に教育委員会と市が連携・協力し、焼津の子どもたちのために、より良い教育の方向性を見出すことができますよう、御指導・御鞭撻を賜ることをお願い申し上げます。</p>
<p>櫛田事務局長</p>	<p>(次第 3 協議事項)</p> <p>(1) 焼津市教育大綱の見直しについて</p> <p>配付資料により説明</p>
<p>奥川委員</p>	<p>焼津市教育大綱の改正案を見たときに、今までの行政の文書とは違うと感じた。文字を読んで意味を知るように教育を受けてきたが、今の子どもたちや若い世代は、目から入るもので内容を推測する、あるいは情報交換をする能力にたけてきていると感じる。そのような世代に対し、焼津市教育大綱を関心もって読んで欲しい。そのような視点から見ると以前の大綱は文字が多かったが、今回の改正案は、めざす姿や基本方針が大変分かりやすい。この方向性は非常に良いと感じた。市長のはじめの言葉にあるように、固定概念を捨てるパラダイムシフトが起きているとあるが、それを行政が実践する内容となっている。内容に異論はない。</p>
<p>大石委員</p>	<p>現在の大綱のめざす姿が、豊かな心を持つ市民であった。今回の改正案でのめざす姿は、みんなで笑顔を育むまち「やいづ」ということで、目でイメージでき、大きく変わったところだと思う。大綱であるので、細かいことは記載せず、基本方針を記載すべきであるが、総合計画の下に大綱があるので、総合計画のめざす姿をより具体的に表現するのが大綱である。みんなで笑顔を育むまち「やいづ」という分かりやすい表現は非常に良い。基本理念に、優しく、強く、愛しい人づくりとある。我慢強さも大切だが、好奇心を持つ</p>

	<p>てチャレンジすることも必要であると思っている。今回の改正案は、我慢強さが強調されていると感じる。不登校等の問題があり、我慢強さも重要であると感じた。</p> <p>次に、基本方針について、めざす姿である、みんなで笑顔を育むまち「やいづ」へどのように結びつけるのか記載があったほうが良いと感じた。また、スポーツの振興について、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に始めたモンゴル国との交流とあるが、全体を見るとこの項目のみ具体的になっている。モンゴル国に限定せず、世界各国との交流等の表現のほうが望ましい。</p>
<p>櫛田事務局長</p>	<p>ご意見を参考に修正する。</p>
<p>山竹委員</p>	<p>前回の大纲と比較し、改正案は非常に良いと思う。めざす姿、目標、理念と区別して記載してあり非常に分かりやすい。表紙に、やさしく、つよく、いとしい人とあるが、いとしい人という表現に少し違和感がある。いとしい人はつくるのか、子どもたちは存在自体がいとしいものである。</p>
<p>櫛田事務局長</p>	<p>改正案は、人づくりに重きを置いて改正案を作成した。再度検討したい。</p>
<p>羽田教育長</p>	<p>事務局と一緒に改正案を検討した。全国的に子どもの数は減っているが、不登校児童生徒数は増えている。様々な要因があるが、「可愛い子には旅をさせよ」ということを言いにくい社会になっている。大人が、子どもが失敗する前に守っている風潮がある。失敗経験は非常に大事であるので、焼津では失敗した子どもを励ますことを大切にしたい。大石委員の指摘にあった、好奇心は非常に大事であり、好きなことを行って、壁に当たった際に、それでも前進する。そのような経験により強く育っていくと思う。強さを持っている人は、失敗経験があるので優しくなれる。そのようなことを保護者や地域が理解して子どもたちと接していけば、焼津は素晴らしいまちにまるのではないか。</p>
<p>奥川委員</p>	<p>教育長の話聞いて、基本理念が大事であると感じた。本日、傍聴に社会教育委員の方がいるが、大変ありがたい。教育長が言ったことは、学校現場だけではできない。社会とのパイプ役となっている社会教育委員が傍聴し大綱の意味を知ること大変ありがたい。</p>
<p>中野市長</p>	<p>本年度の大纲の改正について、修正しながら前に進んでいきたい。</p>

池田学校教育課長	<p>(2) 教育センター事業について 配付資料により説明</p>
山竹委員	<p>「みらい」の「い」について、去年は、居心地のいい環境づくりの「い」であったが、生き生き学ぶ力の育成となっているが、変更したのか。</p>
鈴木主席指導主事	<p>校長会で説明した際に、意見があり、今回から変更した。</p>
奥川委員	<p>教育センター事業が充実してきていることにありがたいと感じる。大変な事業であるが、財政的な協力があってできていると推測する。 特別支援教育事業については、施設整備が大切である。肢体の学校の整備の進捗状況はどうか心配である。従前は静岡市へ通学する必要があったが、焼津市に肢体の学校があることは大変、大きな進歩である。ニーズが増えているが、施設面での対応がどの程度できているのか。難しい問題であるが、手を差し伸べて欲しい。</p>
池田学校教育課長	<p>港小、港中に肢体の児童生徒がいるが、開設にあたり特別支援学校等での経験豊富な教員と協議を行い、施設・設備についてはできる限りの配慮を行っている。また、要望については、可能な限り対応しているが、要望がなくても学校訪問等で気が付いたことは整備していきたいと考えている。</p>
大石委員	<p>資料2、6ページ以降の説明がなかったが。</p>
池田学校教育課長	<p>資料の6ページ以降は昨年度に使用し説明した資料であるため、説明を省略した。</p>
大石委員	<p>各施策について、アンケートを実施して100%の満足という回答となっている。まさに、このセンター事業は今まで眠っていたニーズに対して対応した事業であると思う。これまで多くの苦労があったと思う。焼津市は日本一のセンター事業を目指している。100%とは言え改善点もあると思う。さらにアンテナを高くしてブラッシュアップを進めて欲しい。</p>
羽田教育長	<p>学校教育で子どもたちを伸ばすためには、一番は人である。教員、相談員、支援員の力が大きい。現在、教職員の大量交代期となっており、どんどん若手が入ってきている。教員は大学を卒業し4月に教室に来ると担任である。センターから、人が行って指導する効果は非常に大きい。初任者研修は充実してきているが、県が行う講師への指導は年3回程度である。焼津市では一人に5回から7回指導に行き、若手の力量形成に寄与している。センター事</p>

	<p>業の役割は大きい。また、焼津市は支援員が充実している。県内でトップクラスである。より充実させるためには、人の数だけではなく、方法等も検討しながら進める必要がある。</p>
奥川委員	<p>学校教育が変わってきている一つにOA関係がある。情報推進委員会により焼津市の教育をリードしているが、コロナ禍においてリモートが進んでいる状況で、センター事業のどこかにOA関係について触れていたほうがいいのではないかと思う。</p>
池田学校教育課長	<p>本年度は情報教育研修会を学校教育課の事業として行っているが、今後センター事業の一つとして取り上げたい。</p>
山竹委員	<p>拡充、拡充で大変であると思う。機会の均等を考えると、できるだけ早期にと思う。</p>
中野市長	<p>拠点についてが今後の課題である。事業が大きくなってきているので連携しながら、いい形にしていきたい。</p>
池田学校教育課長	<p>(3) 家庭・子ども支援室について 配付資料により説明</p>
山竹委員	<p>少ない人数で対応していて大変であると思う。実際に助けて欲しい声を出せないところにどのように手を伸ばすかが難しいと思う。特に、保護者が行う各種手続きの補助に関して、行政等からくる文書は難しいものが多い。出す方は正確な表現をしなくてはいけないが、受ける方は非常に分かりにくい。そのため、各種手続きの補助は非常に需要が多いので、頑張っ欲しい。</p>
池田学校教育課長	<p>声を挙げられない家庭に対して、学校との相談の中で対応している。各種手続きの補助の御意見については、大変参考になった。</p>
奥川委員	<p>これだけの成果があったということは、どれだけ教員の気が楽になったか、なかなかできないことを支援室が行っている。支援対象が小学校 44 ケース、中学校 54 ケースとあるが、これだけではないと思う。ぜひこの事業の充実を図って欲しい。期待している。</p>
大石委員	<p>支援対象が小学校 44 ケース、中学校 54 ケースと聞いて、短期間によくやっているという感想である。奥川委員の指摘でまだまだ氷山の一角であるとのことであるので、この事業は大変であるが、拡大していく必要があると感</p>

羽田教育長	<p>じた。</p> <p>不登校の数が驚くほど多く、その1件1件の対応はすべて異なる。関係機関が多くあり、一人の子に対しても連絡するところが複数あり学校の労力は大きい。そのようなことを家庭・子ども支援室が対応し全体のかじ取り役ができればより充実すると思う。</p>
中野市長	<p>始めたばかりで、様々な課題がある。より組織を充実するよう、市としても応援していくように考えている。御指導をお願いしたい。</p>
渡辺子ども未来部長	<p>(4) その他</p> <p>ターゲット子ども館の運営概要について（報告）</p> <p>ターゲット子ども館の場所、面積及び建物の外観・内観イメージ等について説明。</p> <p><質問・意見なし></p>
増田教育総務課長	<p>(次第4 連絡事項)</p> <p>次回開催予定時期を説明</p> <p>本年度の総合教育会議は3回を予定している。次回は10月27日(火)午後3時から開催し、第3回目の会議は令和3年2月22日を計画している。</p> <p>(次第5 閉会)</p> <p>【午後5時00分閉会】</p>